日本・チリ外交関係樹立１３０周年記念ロゴマークの決定

令和８年（２０２６年）１１月２０日

２０２７年、我が国とチリ共和国は、外交関係樹立１３０周年を迎えます。この記念すべき年を迎えるに当たり、両国において周年記念ロゴマークのデザイン案の公募を行い、今般、「日本・チリ外交関係樹立１３０周年記念ロゴマーク」が決定しましたので、下記のとおり発表します。

１　本年６月から７月にかけて実施したロゴマークのデザイン案の公募に対しては、日本・チリ両国において合計２１０件の御応募をいただきました。多くの方からの御協力をいただき、誠にありがとうございました。公募締切後、日本・チリ外交関係樹立１３０周年実行委員会による選考を経て、応募作品の中から以下のデザインをロゴマークとして採用することとなりました。



２　採用されたロゴマークの制作者及びコンセプトは、次のとおりです。

（１）作者：エンソ・イポリト・ブストス・スニガ氏（チリ国籍）

（２）コンセプト：

このロゴマークは、単なる記念日をはるかに超えた意味を表現することを目指しています。これは、文化、教育、科学、経済及び人的交流の上に築かれたチリと日本の１３０年にわたる友情、協力及び相互尊重への敬意です。

折り鶴は、１世紀以上にわたり両国間に紡がれてきた絆を象徴しており、両国の国旗の視覚的な要素を融合させることで、両国のアイデンティティを損なうことなく、連帯のメッセージを伝えています。このデザインは、文化の違いは両国を分断するものではなく、むしろお互いを豊かにし、未来に向けた強固な関係を築く源となることを反映しています。

全体として、このロゴマークは、太平洋を隔てていながらも、信頼と尊敬を通じて共通の歴史を見出し、今日、外交関係と友好の１３０周年を祝う両国民の平和、協力及び相互理解への共通の決意を表しています。

３　本ロゴマークは、２０２７年に日本・チリ両国において行われる「日本・チリ外交関係樹立１３０周年記念事業」等において使用される予定です。同記念事業の申請・認定手続等については、後日詳細を改めてお知らせします。